

1 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
107-94	高等学校	地理歴史科	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
46 帝国	日探 046-901	新詳日本史探究		

1. 編修の趣旨及び留意点

小・中学校及び歴史総合での学習を踏まえ、「歴史的な見方・考え方」を働かせながら日本の歴史を捉え直し、グローバル化の進む現代社会において多様な人々と共生し、平和で民主的な国家・社会の形成者に必要な資質・能力を育成することを目指した。

2. 編修の基本方針

◇教育基本法第2条に示される教育の目標を達成するために、下記の基本方針に基づいて編修した。

(1) 国際的視野に立った広範な知識と探究心を育む教科書(第1号)

- ・日本の歴史を世界の動向と関連づけて記述し、国際的視野に立った広範な知識を獲得できる構成とした。
- ・特設「世界の中の日本」では当時の国際情勢と日本の関係を地図や資料を用いて可視化し、また同名のコラムを随所に配置して、知識とともに多角的な思考力の育成を図った。
- ・本文において、**歴史的事象の背景・因果関係・構造変化を丁寧に記述**することで、生徒の理解を深められるようにした。
- ・また、本文には**要約文・側注・Key Word**を設け、歴史の流れや必要な用語・概念の理解、また主体的な学習の助けとなるよう工夫した。
- ・「時代の扉」では、概説・地図・年表を一体的に提示することで、時代の全体像を把握しながら知識を体系的に習得できるよう工夫した。

(2) 個の尊重と探究的な学びによって資質・能力を伸ばす教科書(第2号)

- ・探究的な学習を展開しやすい構成とし、各部で「**探究する問い(時代を通観する問い)の表現**」(1章)→「**仮説の表現**」(2章)→「**自身の問いと仮説を軸に行う学習**」(3章)→「**自身の問いと仮説を再確認し、答える学習**」(まとめと展望)というサイクルを設け、思考力・判断力・表現力を涵養できるようにした。
- ・「問い」や「課題」によって、生徒が主体的に探究的な学習に取り組めるようにした。
- ・2章「**探究 TRY**」では、みずからテーマを選び、複数の資料をもとに仮説を立てる活動を行うことで、創造性と論理的思考力の両立を促した。
- ・探究的な学習のまとめとして「**現代の日本の課題の探究**」を設け、学習内容を現代社会や将来の進路に結びつけられるようにした。また、その最初に「**歴史探究の方法**」を設けることで、課題を探究する活動への取り組み方も理解できるようにした。
- ・本文ページ下部に、1～3部では「**中学校との関連**」、4部では「**歴史総合との関連**」マークを設け、それぞれでの学習内容との関連事項を示すことで、中学校と歴史総合での学習を踏まえた学習活動に取り組めるようにした。
- ・**QRコンテンツ**(「**一問一答**」「**用語解説**」「**演習問題**」など)により、生徒がみずからの学習状況を確認・調整しながら学べるよう配慮した。

(3) 多様性の理解と公共性を育む教科書(第3号)

- ・**女性史・生活史・地域史・文化史**を積極的に取り上げ、多様な立場から日本の歴史を理解できるようにし、多面的な歴史観を涵養できる構成とした。
- ・**アイヌ民族や琉球の人々について、前近代から現代まで通時的に扱う**ことで、多文化共生の視点を養う記述とした。
- ・特設とコラムの「**地域の歩み**」では、地域の歴史的特性や課題を掘り下げ、公共的な問題意識とローカル

な実践への関心を高める機会を設けた。

- ・女性史や差別などについては本文で丁寧に取り上げたほか、「人権・ジェンダー」のマークつきのコラムも意識的に配置し、差別と平等の問題を歴史的課題として明示し、人権意識を涵養できるよう工夫した。
- ・項末に設置した「歴史再考！」では、新しい学説や一次資料をもとに歴史の多面性を考察し、柔軟な思考力と社会参画の基礎を養えるようにした。

(4) 自然と人間の間関係を見つめ直し、環境への意識を高める教科書(第4号)

- ・環境史や災害史など、自然と人間との関係に関するテーマを取り上げ、現代的な課題と関連づけた学びができるよう配慮した。
- ・「環境・防災」マークつきのコラムを通じて、自然災害と人間社会との関係を歴史的に理解し、災害への備えや環境保全への意識を高める視点を明示した。

(5) 伝統と文化への理解を深め、国際社会と共に生きる力を養う教科書(第5号)

- ・文化史を扱う「文化から見る当時の社会」や、生活・宗教・祭礼といった文化的側面の記述を通じて、日本社会における多様な価値観の形成過程を理解できるようにした。
- ・「世界の中の日本」では、国際的文脈の中で日本の歴史的役割や国際関係を取り上げ、国際理解と他者尊重の姿勢を育てる構成とした。
- ・他国との戦争・外交・文化交流の歴史を通して、平和構築や国際協調の重要性を学べるようにした。
- ・「現代の日本の課題の探究」(4部4章)では、グローバルな課題を具体的事例に基づいて考察できるよう工夫し、主体的に学べるよう配慮した。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<p>1部 先史・古代の日本と東アジア</p> <p>1章 先史時代の社会の形成</p> <p>2章 歴史資料と先史・古代の展望</p> <p>3章 古代社会の形成と変容</p> <p> 1節 律令国家の形成と展開</p> <p> 2節 律令国家の転換と貴族文化</p> <p>まとめと展望</p>	<p>◇先史時代の人類と、気候や動植物との関係性を丁寧に取り上げることで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養えるよう配慮した(第4号)。</p> <p>◇2章「探究 TRY」には、生徒が自らの興味をもとに、資料から仮説を表現する学習の流れを丁寧に掲載することで、個人の価値を尊重し、能力と創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるよう配慮した(第2号)。</p> <p>◇日本の古代国家形成における中国・朝鮮からの影響を記すことで、国際的な視野から歴史を理解するとともに、幅広い知識と教養を身につけられるよう配慮した(第1号)。</p> <p>◇古代の各文化に「文化から見る当時の社会」を設け、世界遺産・国宝をはじめとした文化財を多数掲載しつつ、その成り立ちなどを丁寧に解説することで、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう配慮した(第5号)。</p>	<p>p.8-19</p> <p>p.20-25</p> <p>p.26-69</p> <p>p.12-13、16-17、30-31、34-35、42-43、50-51、64-65</p>
<p>2部 中世の日本と世界</p> <p>1章 中世社会への転換</p> <p>2章 歴史資料と中世の展望</p> <p>3章 中世社会の展開と変容</p> <p> 1節 武家政権の発展と安定</p> <p> 2節 東アジアの動向と武家政権の変容</p>	<p>◇モンゴルの襲来や倭寇についての記述など、世界的な背景まで深められる内容としたことで、国際的な視野からの歴史の理解とともに、幅広い知識と教養を身につけられるよう配慮した(第1号)。</p> <p>◇政治権力者や戦闘に関わる人々として、男性ばかりではなく、女院など女性についてもコラム</p>	<p>p.74-83、90-135</p>

<p>3節 武家支配の拡大と経済活動の活発化 まとめと展望</p>	<p>などで取り扱うことで、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した（第3号）。</p> <p>◇2章「探究 TRY」には、生徒自身が、自らの興味をもとに資料から仮説を表現する学習の流れを丁寧に掲載することで、個人の価値を尊重し、能力と創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるよう配慮した（第2号）。</p> <p>◇本文やコラムにおいて、差別された人々の具体的な背景や様相、また活躍について丁寧に取り上げることで、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した（第3号）。</p>	<p>p.76、97、98、112、132 p.84-89 p.103、128</p>
<p>3部 近世の日本と世界 1章 近世社会への転換 2章 歴史資料と近世の展望 3章 近世社会の展開と変容 1節 幕藩体制の確立 2節 幕藩体制の安定化と社会の発展 3節 幕藩体制の動揺と社会の成熟 まとめと展望</p>	<p>◇近世における海外との交流や文化流入について丁寧に扱い、また特に、日本とその周辺が世界に影響を与えた「銀」と「毛皮」については特設ページを設置することで、国際的な視野から歴史を理解するとともに、幅広い知識と教養を身につけられるよう配慮した（第1号）。</p> <p>◇文化史を扱う項では、日本の伝統文化とされる浮世絵・歌舞伎とともに、現代にも残る日本の生活習慣などの起源も取り上げることで、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養えるよう配慮した（第5号）。</p> <p>◇2章「探究 TRY」には、生徒自身が、自らの興味をもとに資料から仮説を表現する学習の流れを丁寧に掲載することで、個人の価値を尊重し、能力と創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるよう配慮した（第2号）。</p>	<p>p.140-207 p.150-153、164、184-187、198-203 p.154-159</p>
<p>4部 近現代の地域・日本と世界 1章 近現代社会への転換 2章 歴史資料と近現代の展望 3章 近現代社会の展開と変容 1節 新政府による国づくり 2節 立憲政治の成立と日清戦争 3節 資本主義の確立と日露戦争 4節 両大戦間期の日本 5節 第二次世界大戦と日本 6節 占領と日本の復興 7節 経済大国日本への道 8節 グローバル化による変化と日本の課題 まとめと展望 4章 現代の日本の課題の探究</p>	<p>◇世界から日本への影響だけでなく、日本が世界へと与えた影響についても丁寧に扱うことで、国際的な視野から歴史を理解するとともに、幅広い知識と教養を身につけられるよう配慮した（第1号）。</p> <p>◇2章「探究 TRY」には、生徒自身が、自らの興味をもとに資料から仮説を表現する学習の流れを丁寧に掲載することで、個人の価値を尊重し、能力と創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるよう配慮した（第2号）。</p> <p>◇動物の絶滅と環境破壊について、2章「探究 TRY」でアホウドリの個体数減少をテーマとして、多様な資料から生徒自身に課題を考えさせることで、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことができるよう配慮した（第4号）。</p> <p>◇アイヌ民族・沖縄の人々・在日朝鮮人など日本に住む多様な人々について、本文・コラム・特</p>	<p>p.212-223、230-359、361-367 p.224-229 p.226-227 p.224-225、240-241、251、</p>

	<p>設・まとめなどで近代から現代までの動きを通時的に掲載し、多文化共生への認識を深める構成とすることで、公共性を重んじ、主体的に社会に参画する態度を育てられるよう配慮した（第3号）。</p> <p>◇女性史やジェンダーの問題などについて、本文や「人権・ジェンダー」コラムと特設などで丁寧に取り扱うことで、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮した（第3号）。</p> <p>◇日清・日露戦争後の日本の対外膨張、第一次世界大戦後の国際協調の動きとその挫折、第二次世界大戦の反省を踏まえた国際連合の成立と日本の国際社会への復帰、現代に繋がる日本の国際協力までの流れを丁寧に解説することで、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるよう配慮した（第5号）。</p> <p>◇公害の発生や公害対策基本法の設置、また震災などの災害とその影響といった事項を、本文や「環境・防災」コラム、4部4章「現代の日本の課題の探究」などで丁寧にとり扱うことで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことができるよう配慮した（第4号）。</p> <p>◇4章「現代の日本の課題の探究」において、これまでの学習を生かし、現代日本の課題に関するテーマを設定してレポートにまとめる探究の例を示し、活動を促すことで、個人の価値を尊重し、能力と創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるよう配慮した（第2号）。</p>	<p>269、284、287、 315、320-322、 339、342、 345、348、362、 364、374-375 p.235、236、 238、253、264、 272、281-283、 309、325、344、 348、367 p.254-365</p> <p>p.265、343、 352、363、 366、372- 373</p> <p>p.370-377</p>
<p>4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p>		
<p>◇教科書全体を通してQRコンテンツを充実させ、「個別最適な学び」に対応できるようにした。各ワークシートと「思考ツール・白地図」は主に思考力・判断力・表現力を鍛えること、「一問一答」「演習問題」「用語解説」「地図」は主に知識の定着を図ること、「時代像イラスト」「動画」「NHK ONE for School」「外部リンク」は主に学習意欲を高めることができるよう、それぞれ配慮した。</p> <p>◇色覚に特性のある生徒でも識別しやすい色を使うよう配慮した。本文やキャプションなどの文字は、はっきりと判読することができる、ユニバーサルデザインフォント（UDフォント）を使用した。</p> <p>◇造本においては、環境に配慮し、かつ鮮明に発色し裏写りがしない用紙を使用した。また、使用期間中に破損することがないように、堅牢な造りにした。</p>		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-94	高等学校	地理歴史科	日本史探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
46 帝国	日探 046-901	新詳日本史探究		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

◇小・中学校及び歴史総合の学習を踏まえ、「歴史的な見方・考え方」を働かせながら日本の歴史を捉え直し、グローバル化の進む現代社会で多様な人々と共に生きることを構想できる教科書となるよう、以下の点に配慮した。

【内容の特色：「何を学ぶのか」】

(1) 日本の歴史が世界の動きとともに分かる教科書

- ・歴史総合での学習を踏まえ、日本の歴史を世界の動きと連動させて捉えることができるよう、本文では**国際情勢・国際経済や外交が日本に与えた影響を意識した記述**を行った。日本に直接的な影響を与えた国際的事象は本文中で丁寧に扱い、理解の深化を図った。
- ・本文の出来事に大きく影響した世界の動きについて詳しく記述した**特設「世界の中の日本」**を設けた。ここでは、当時の日本の動きと国際社会のつながりを地図と資料を用いて可視化し、生徒がグローバルな視点で日本史を捉えられるようにした。
- ・日本の動きの背景となった世界の動きや、世界から見た日本についての内容を、**コラム「世界の中の日本」**として設置し、日本の歴史を「外との関係性」からも学べる教科書とした。

(2) 歴史の流れ（因果関係や背景）とその舞台が分かる教科書

- ・本文では、歴史的な出来事の背後にある原因や結果、時代的背景を丁寧に記述し、生徒が歴史の流れや構造的な変化を把握できるようにした。特に、章・節・項の冒頭に「**問い**」や「**課題**」を明示することで、学習の焦点を明確にし、理解を深めやすくした。
- ・本体の構成は、**本文・要約文・側注・Key Word**を組み合わせることで、歴史の流れをつかみつつ、重要事項を整理し、またより詳細な知識も確認できるよう工夫した。さらに、年表を小口に配置し、紙面に地図を多数配置することで、時間軸・空間軸の両面から歴史的展開を理解できるようにした。
- ・「**時代の扉**」では、概説・地図・年表をまとめて提示し、その時代の学習に入る前の見通しをもたせ、既習事項との接続や歴史的背景の理解を促進した。

(3) 多様な視点から日本の歴史が分かる教科書

- ・中央の政治史に加え、本書では、**地域史、生活史、文化史、女性史**など、多様な観点から日本の歴史を描くことを重視した。
- ・**アイヌ民族と琉球の人々**について、前近代だけでなく、現代に至るまで通時的に丁寧な記述を行うよう工夫した。
- ・4部においては、学習指導要領に示された「地域社会に着目した学習」に対応し、**特設「地域の歩み」**を設けた。さらに、古代から近世にかけても、随所に同名のコラムを配置し、地域の視点を通時的に意識できるようにした。
- ・また、**コラム**では、教科書本文の内容を深めたり、異なる視点からみたりする内容と共に、現代の課題に繋がるテーマも取り上げた。特に、「**人権・ジェンダー**」もしくは「**環境・防災**」に関する箇所にはマークを付し、視覚的に分かりやすくした。同様の方針にて**特設「深める」**も設置した。
- ・項末には基本的に、**コラム「歴史再考！」**を設置し、従来の通史的理解に対して、一次資料や新しい学説に基づく新たな視点を提示し、多面的・多角的な考察が可能となるようにした。

【コンピテンシーに関わる特色：「どう学ぶのか」】

(1) 学習指導要領で示された探究的な学習がしやすい教科書

- ・学習指導要領の構成を踏まえ、部＝大項目、章＝中項目とし、それぞれに探究的な学習が展開できるような構造を整えた。具体的には、各部において、1章で「探究する問い（時代を通観する問い）」を表現し、2章で仮説を表現する「探究 TRY」に取り組んだ上で、3章で表現した問いと仮説を軸に学習を行い、各部末の「まとめと展望」で問いと仮説を再確認し、答える構成とした。
- ・各節・各項では、「節の問い」「項の課題」に基づいて学習を始め、学習の終わりには「項の振り返り」「節の振り返り」を設けて、見通しと振り返りを有機的に結びつけた。
- ・探究活動の集大成として、4部4章に「現代の日本の課題の探究」を設け、学習指導要領で示された3つの探究テーマに対応した内容を扱うことで、それまでの歴史学習の積み重ねを踏まえた未来志向の探究活動が可能となるようにした。

(2) 資料活用能力等の資質・能力を育成できる教科書

- ・各章・節の冒頭には図版・資料とともに「疑問」を提示し、資料読解から学習を始める構成とした。これにより、生徒が資料を読み取り、自ら課題を発見する力を養えるようにした。
- ・本文では、本文中の史料・地図・統計などに適宜「資料活用」マークを付し、資料活用を促すことで、学習過程で自然に資料活用能力が身につくようにした。
- ・2章「探究 TRY」では、資料から仮説を表現する一連の活動を行うなかで、複数資料を活用した探究的な学習が実践できるように構成した。

(3) 基礎的・基本的な知識の習得から、その活用と表現までできる教科書

- ・基礎的・基本的な知識の確実な習得を重視し、本文への掲載用語を精選した。一方で、詳細な知識の習得も可能となるよう、側注や表などで知識量を保つようにした。
- ・本文には、小見出しごとに要約文を設置し、簡潔に学習内容の見通し・振り返りができるようにした。巻末には「歴史総合頻出用語」を掲載し、知識の定着と振り返りができる構成とした。
- ・「節の振り返り」では、生徒が習得した知識をもとにみずからの考えを文章で表現する課題を設け、思考力・判断力・表現力の育成にもつながるように配慮した。
- ・本文ページ下部に、1～3部では「中学校との関連」、4部では「歴史総合との関連」コーナーを設け、それぞれでの学習内容との関連事項を示すことで、中学校と歴史総合での学習を踏まえた学習活動に取り組めるようにした。
- ・QRコンテンツとして「一問一答」「用語解説」「演習問題」などを設け、知識を活用する力や表現力を確認・育成できるようにした。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
1部 先史・古代の日本と東アジア			
1章 先史時代の社会の形成	A (1)	p.8-19	4
2章 歴史資料と先史・古代の展望	A (2)	p.20-25	1
3章 古代社会の形成と変容			
1節 律令国家の形成と展開	A (3)	p.26-53	8
2節 律令国家の転換と貴族文化		p.54-69	4
まとめと展望		p.70-71	1
2部 中世の日本と世界			
1章 中世社会への転換	B (1)	p.74-83	3
2章 歴史資料と中世の展望	B (2)	p.84-89	1
3章 中世社会の展開と変容			
1節 武家政権の発展と安定	B (3)	p.90-105	5
2節 東アジアの動向と武家政権の変容		p.106-119	4
3節 武家支配の拡大と経済活動の活発化		p.120-135	5
まとめと展望		p.136-137	1

3部 近世の日本と世界			
1章 近世社会への転換	C (1)	p.140-153	4
2章 歴史資料と近世の展望	C (2)	p.154-159	1
3章 近世社会の展開と変容			
1節 幕藩体制の確立	C (3)	p.160-174	5
2節 幕藩体制の安定化と社会の発展		p.175-187	4
3節 幕藩体制の動揺と社会の成熟		p.188-207	6
まとめと展望		p.208-209	1
4部 近現代の地域・日本と世界			
1章 近現代社会への転換	D (1)	p.212-223	4
2章 歴史資料と近現代の展望	D (2)	p.224-229	1
3章 近現代社会の展開と変容			
1節 新政府による国づくり	D (3)	p.230-243	4
2節 立憲政治の成立と日清戦争		p.244-259	5
3節 資本主義の確立と日露戦争		p.260-377	5
4節 両大戦間期の日本		p.278-397	5
5節 第二次世界大戦と日本		p.298-317	5
6節 占領と日本の復興		p.320-239	5
7節 経済大国日本への道		p.340-259	5
8節 グローバル化による変化と日本の課題		p.361-367	2
まとめと展望		p.368-369	1
4章 現代の日本の課題の探究	D (4)	p.370-377	5
			計 105 時間